



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2016~2017年度クラブテーマ
会長 岩上 義明

東京赤坂ロータリークラブ

No. 1388 / 2016. 11. 18

例会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

TeL 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

<http://www.akasakarotary.com/>

「未来に向かって 皆で一歩前へ進もう！」

●本日の例会/ 2016年 11月 18日 第1419回
第3回クラブ協議会
テーマ:「奉仕プロジェクトについて」

●前回報告/ 2016年 11月 11日 第1418回例会
卓話:「ワイン通にならないためのワインの話」
ソムリエ 高橋 時丸 氏



紹介者:畠中一郎

親睦活動委員会:(佐久間サブリーダー)

来年の親睦旅行についてご連絡です。4/15(土)、4/16(日)に京都へ行くことに決まりました。年内に出席者を決定したいので佐久間までご連絡お願ひいたします。

幹事報告

次週はクラブ協議会となっております。出席のご協力お願い申し上げます。



11月11日 11件 22,000円
累計 581,500円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

岩上義明/高橋時丸様、本日のワインのお話、楽しみにしておりました。小林博茂/トランプさんには、ビックリでした。河邊幸夫/福田さんようこそ、赤坂RCへお越し頂きました。佐藤仁/高橋様のお話しを楽しみにしていました。浅沼様ニコニコお疲れ様です。藤井万博/寒くなりましたね!浅沼さんニコニコ担当ありがとうございます。石井達/時丸様の卓話楽しみにしております。熊本誠司/浅沼さんニコニコご苦労様です。魏芝/今日で日本に来て28年になりました。的場隆光/インフルエンザはやっておりますので、皆様気を付けてください。高橋様本日の卓話楽しみしております。張宇/今日は大勢の方々がお見えになりました、天気より気持ちは晴れます。高橋様の卓話は楽しみにしています。浅沼洋一/今日は2回目のニコニコ当番でしたが、すっかり忘れており、熊本さんからの電話で気が付きました。熊本さんありがとうございました。

地区ガバナー月信・年次報告委員会より

皆さん、こんにちは!国際ロータリー第2750地区ガバナー月信・年次報告委員会委員長の松林智紀と申します。ガバナー月信11月号が発行されましたので、その内容を簡単にご紹介します。今月号は、合計6ページとなっており

- (1) 大槻哲也ガバナー、坂本俊雄パストガバナー、高橋茂樹ロータリー財団委員長による紙上鼎談会「ポリオの現状と撲滅までの道のり」
- (2) 水野功直前ガバナーによる「日本のロータリー100周年に向けて」
- (3) 松本啓祐規定審議委員会委員長、星野勇介クラブ情報委員長による対談「2016年RI規定審議会決定について」

の3本立てです。

いずれの記事もまさに今ホットなテーマをわかりやすく解説する内容になっております。特に紙上鼎談会は私の知る限りガバナー月信の企画としては初の試みではないかと思いますので、そのあたりも含めてお楽しみください!

ガバナー月信11月号は以下でご覧いただけます。

第2750地区webサイト

<http://www.rid2750.org/gml/2017/gml201611.pdf>

※QRコードからも
アクセスできます!



出席報告:会員 55名 / 出席 33名 欠席 22名

ゲスト: 高橋時丸(卓話)、福田栄二

ビジター: 川合義彰(東京新都心RC)、串田ゆか(裏屋川RC)、剛嘉宏(東京芝RC)

計5名(順不同・敬称略)

● 次回予告 / 2016年11月25日 第1420回例会

卓話:「中東から見た日本」

元外務省中東2課長 宮原 信孝 氏

もうひとつの周年行事

今年、我がクラブは創立 30 周年を迎えるということで、クラブを挙げて準備をしている。10 周年の時は入会したばかりで、右往左往しているうちに過ぎてしまったが、あれからもう 20 年、当時が懐かしく思い出される。

大学を卒業して 50 年、突然招集がかかわり、記念の同期会をやることになり、目下、その準備にも追われている。50 年にして初めて同期会を開くというのも大変である。まずは連絡をするために名簿を整備しなければならない。当然のことながら、クラス会などを頻繁にやっている学科は、名簿が充実しているので、問題はないが、そうでないクラスは、手を焼くことになる。

今回は、他のことでも苦労することになった。1 年次のクラス名を判明しようというのである。我が大学は入学時には学科の振り分けがなく、全員が一律に教養課程である。600 人が機械的に、40 人ずつ 15 クラスに分けられ、それぞれに担任がつく。当時は随分子供っぽいなと思ったものだが、地方から出てきたばかりの者にとっては希望と不安の 1 年、それなりに心の支えにもなり、特別な思い出がある者もいる。今更そのクラスを思い出せと言われてもすぐには思い出せない。最初の調査では 10% 程度の回答しか得られなかった。これでは当日予定している「1 年次クラスに集まろう」ができない。そこで再度調査をすることにし、最初の調査結果をフィードバックすることにした。すると、同級生の名前や、担任の名前を手掛かりに思い出したりする。中には、当時のクラス名簿を発見し、一挙に解決というケースも。最終的には 60 % 程度まで判明した。

調査をしながら、今更ながら感心したのは、担任に永井道雄、川喜田二郎、伊藤整、宮城音弥の各先生など、その分野の第一人者が名を連ねている。これらの先生方の講義を受けたことはあるのだが、担任までしているとは思ってもいなかった。当時、大学はリベラルアーツを標榜し、教養を身に付けつつ、専門の技術を極めることを目指していたのである。この方針は、今も貫かれているらしい。今頃になってそのありがたさがやっと少しほ分かるようになった気がするが、50 周年の収穫といえるかもしれない。



2018-19 年度 RI 会長が決まりました

10 月 1 日、ジョン F. ジャーム RI 会長は、サミュエル F. オオリ 氏（ウガンダ、カンパラ・ロータリークラブ所属）を国際ロータリーの会長ノミニーとして宣言しました。



8 月に会長指名委員会によって指名されたオオリ氏は、アトランタ（米国ジョージア州）での 2017 年ロータリー国際大会にて正式に選出され、2018 年 7 月 1 日に会長に就任します。

オオリ氏は、ロータリーには「変化をもたらそうとする驚くべき情熱」があるとし、会長として「この情熱と誇りを生かして、すべてのプロジェクトが平和と繁栄の原動力となるようにしたい」と考えています。

ロータリーのリーダーとしてのオオリ氏の一番の関心は、会員増強と拡大です。ウガンダでは、自身が地区ガバナーを務めて以来、クラブ数がわずか 9 クラブから 89 クラブにふくらみました。もっと多くの女性、青少年プログラムの参加者、学友、地域社会の人びとにロータリーに参加してもらい、今後数年間にロータリー会員を増やすために、元リーダー、現リーダー、未来のリーダーの協力が必要だと訴えます。

「ロータリーのない場所、また、入会を誘われたことのない潜在的会員が多く存在する」とオオリ氏。「問題は、ロータリアンが自分が入会した後で、扉を閉ざしてしまうことです」

Institute of Corporate Governance of Uganda の現 CEO。以前には、アフリカ開発銀行、ウガンダ商業銀行、ウガンダ開発銀行の取締役でした。ハーバードビジネススクールを含む米国、英国、日本、イス、タンザニアの教育機関で、法律、雇用関係、経営、企業資源管理、マイクロファイナンス、マーケティングを学びました。

1978 年にロータリー入会。以来、ロータリー財団地域コーディネーター、RI 会員組織地域コーディネーター、国連環境計画と国連人間居住計画への RI 代表、RI 理事、インターナショナル・ポリオプラス委員会委員、薬物乱用防止タスクフォースメンバー、監査委員会の委員、ロータリー財団管理委員、ロータリー財団財務委員長、投資委員会委員を歴任しました。ロータリー財団ベネファクターであり、ノラ夫人とともにメジャードナーとポール・ハリス・フェローでもあります。

ロータリー・インターナショナルより (4-Oct-2016)

<https://www.rotary.org/ja>

2016 年 11 月のロータリーレートは、1 ドル=102 円